お茶の間

赤痢の流行は季節を問わない

昔から伝染病の横綱と云えば、チフスと赤痢の二つがあげられてきたが、最近では、チフスの姿は消えたものの、赤痢は今なお猛威をふるっている。しかも近年の発生状況をみると、夏だけの伝染病ではなくなり、冬や春にもふえてきている。

昭和二五年には、一年内の七〇％が、夏の七、八、九月に発生し冬には三％位しかなかったものが三四年になると一月だけでも四％の発生があり、逆に夏の各月は、一〇％以下となっている。

この十年間には、夏の患者がへって、一月と春に多くなり、昭和三八年二月には、和歌山県に四五〇名、同じく広島県に三〇七名、同年五月には、帝国ホテルの集団発生があった。本県においても、本年五月に多数の発生があり、いずれも、冬から春にかけての集団発生が多い。

赤痢菌は種類が多いが、これを大きく三つに分けると、志賀赤痢菌、フレキシネル菌、ソンネ菌であり、その病原力は、志賀菌が最も弱く、ソンネ菌が最も強い。赤痢菌は、大腸菌の糞便の中に生存し、尿中には存在しない、糞便が唯一の伝染源となるので、便槽の消毒、蠅の駆除が大切である。

集団発生時には、食中毒と赤痢の鑑別がむつかしいが、食中毒の場合には、急激におこる嘔吐、発熱、悪寒とはげしい腹痛がある。赤痢の場合は下痢便に、膿や血液が含まれ、テネスムス（排便後も便意を催す状態）や、左下腹部疼痛などがある。決定は、細菌や直腸検査をしなくてはならない。赤痢は、チフスと異り、予防ワクチンが一般化されておらず、その上一見、健康者とみられる中に、保菌者の存在することも、赤痢撲滅のむつかしい一原因であろう。料理や、給食に従事される人たちは保菌者のあることを自覚され、年に二回位の検便をすすんで実施していただきたい。

最近抗生物質の出現により、家庭療法でしまっをする者が多くなったようであるが、菌にも抗生物質に対する抵抗力ができ、効果のすくないものもあるので、ぜひ、初期に医師の治療をうけることが大切である。隔離病院の治療費は公費でまかなわれ、無料であるが患者は、なにか罪人あつかいをうけるような感じをもたれるためか進んで治療をうけたがらない傾向がある、とかく日本人には、公衆衛生に関する道義感がうすいが、あらためたいものである。

市当局は、くみとり業者と協力して便所の消毒につとめ、さらにどぶの清掃に力を入れて、はえや、かの駆除に努力をしてもらいたい。不良食品や、生食品はもちろんであるが、皿鉢や、折詰には業者の注意をお願いいたしたい。食事前に手を洗うこと、こんな簡単なことが案外忘れがちであるがまずみんなで実行いたしましょう。

（山）

科学 HIJKLMNOP

金山発見法

ここ当分の間科学がかなり進んでも金が使用されている間は人間は金を儲けるために働くだろう。一やく大金持ちになるためには発明が手取り早い。雨の降る日の自動車の運転はワイパーで水をかき落してもどうも具合が悪い。雨が当れば水が玉になってころりころりと落ちれば文句なしである。蓮の葉やたいもの葉に水をかけると玉になってころりと落ちる。多分表面に生えている小さな手のようなもののためであろう。ガラスの表面をこれと同じにすれば億万長者間違い無しである。

夜間の運転は前の車のライトがまぶしくて運転がやりにくい。若し前方の光は見えず自分の光だけ見えるガラスを発明すれば自動車はもちろん、これで眼鏡を作れば儲かってしかたがないだろう。自動車がチエンを後にたらして走っているのは静電気を地中ににがすためである。若し電気を通すゴムを発明しタイヤーを作ればチエンは不用になる。又このゴムに小さな孔を明けて皮の如く通気性を持たし、これで長靴や手袋を作れば汗でむれず世の人々から喜ばれ、発明者は金山を発見したことになる。金山を発見することは何も山の中とは限らず、身近にころがっているものだ。鉄空（ロケット）

心臓を落とす

暑さのせいか、このほど正午ごろ市の少年補導カーに乗った南国署・西岡刑事らが、市役所三和支所前の県道にオート三輪以上の車に付ける、ガソリンタンクが落ちているのを発見した。約四十リットル入っており、遺失物として署に持ち帰った。三輪以上の車になるとタンクから吸引しなくても、キャプレーターなどにたまった分で百メートルほど走れるが、当時現場付近のどの道路でもタンクをなくしてエンコしている車がなかった。

それに運転経験者たちは、タンクが落ちたら気付くはずだが、と評判した。しかし、そのころ南国署に届けたものがなく、真昼の怪事件？とうわさされた。

行政指紋登録

南国署は国立高知工業専門学校＝日章＝の要望で、このほど一年生、新職員計百三十六人の行政指紋を採取しました。

同校は昨年から自発的にやっており、全員が登録して置く方針。＝写真は工専校の指紋採取風景

毎月第一日曜は
家庭の日です。